

中学校統合説明会 2022年12月 【説明付き】

～アンケート結果を踏まえた今後の中学校統合について～

1

目次

1. (1)アンケート結果
(2)検討に当たって
2. (1)学級数・生徒数 (4)専科科目教職員の配置
(2)通学距離 (5)必要な教室数の見込み
(3)部活動の選択肢 (6)新しい学校像(案)
3. (1)検討結果整理表
(2)まとめ
(3)結論

2

【1頁 説明】

中学校統合については、生徒数のさらなる減少などから、具体的な配置については、校数を含めて再検討することとして、ソフト・ハードの両面で、将来の子どもたちの学習環境の充実を図るため、中学校の統合について、さらに検討し協議を進めていきたいと考えています。

4月から各小学校、保育所、幼稚園で保護者の方を対象とした説明会や、PTAや民生委員の方、学校運営協議会で検討状況の報告を行ってきました。

そして、6月末から7月にかけて中学校統合に関するアンケートを実施しました。その結果、2校統合が約4割、1校統合と3校統合が約3割の結果となりました。

このアンケート結果を踏まえた今後の中学校統合に関して、市長が「総合教育会議」を3回開催し、教育長、教育委員と情報共有を行い、意見調整を行ってきました。

説明会においては、1校、2校、3校の校数案に対する長所・短所を整理して、子どもたちにとって一番望ましいと思われる「案」をご提示させていただき、保護者の皆様からご意見、ご感想をいただきたいと考えています。

ポイントとしては、特に関心の高い、通学や学校の位置に関して、再検討した内容を説明し、子どもたちにとって一番望ましいと思われる「案」を皆さんにお伝えしたいと考えています。

【2頁 説明】

説明会の中で説明させていただく内容です。

1では、アンケート結果を再確認します。

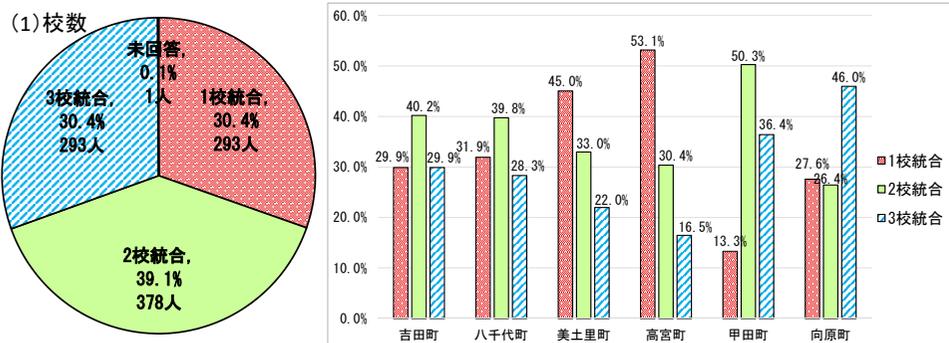
- 2で検討項目として、
- (1)学級数・生徒数
 - (2)通学距離
 - (3)部活動
 - (4)専科職員の配置
 - (5)必要な教室数
 - (6)新しい学校像の案

の6項目について検討をいたしました。

最後にまとめてして、それら検討したことについて、長所・短所として整理しております。

1.(1)アンケート結果－＜校数＞

・2校統合が39.1%と一番高く、次いで1校統合、3校統合がそれぞれ30.4%の結果となった。



3

【3頁 説明】

6月に実施したアンケート結果から2校案を選択した保護者が39.1%と一番多く、続いて1校案、3校案を選択した保護者が30.4%という結果となりました。

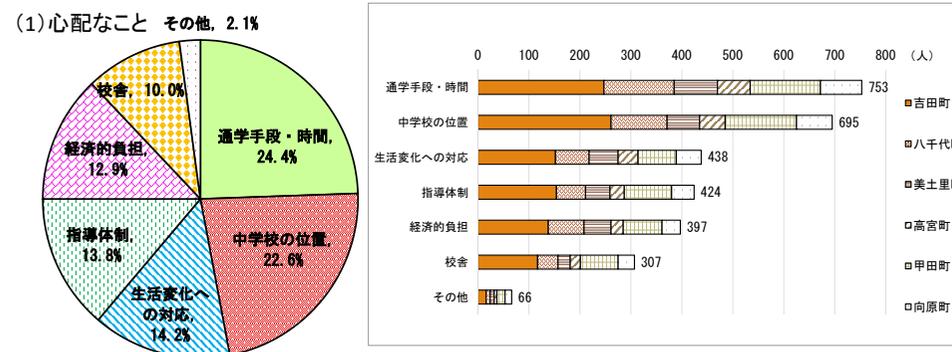
町別に見ると、

吉田町においては、2校案40.2%、1校案・3校案が29.9%
 八千代町においては、2校案39.8%、1校案が31.9%、3校案が28.3%
 美土里町においては、1校案45.0%、2校案が33.0%、3校案が22.0%
 高宮町においては、1校案53.1%、2校案が30.4%、3校案が16.5%
 甲田町においては、2校案50.3%、3校案が36.4%、1校案が13.3%
 向原町においては、3校案46.0%、1校案が27.6%、2校案が26.4%

という結果となりました。

1.(1)アンケート結果－＜心配なこと＞

・通学手段、時間が24.4%と一番高く、次いで中学校の位置が22.6%の結果となった。



4

【4頁 説明】

アンケートにおいて「統合における心配なこと」について質問いたしました。

「通学手段・時間」を心配する回答が、全体の24.4%で、次いで「中学校の位置」が22.6%という結果となりました。

通学を心配される保護者の方が多いということが分かりましたので、これから説明する検討項目でも、最重要項目として検討を進めていくこととします。

アンケート結果から、2校案を選択した保護者が一番多く、通学と学校の位置を心配する保護者が多かったことから、検討に入る前段として、通学の距離に着目して、2校案のグルーピングを次の4パターンに再考しています。

1.(2) 検討に当たって

- ・パターン2の場合、現中学校からの平均距離が一番短い。
- ・2校案の場合、パターン2で検討する。

2校案	グループ分け	現中学校からの距離		
パターン1	吉田グループ (吉田・八千代・美土里)	八千代～10.9km	美土里～13.8km (平均 12.4km)	パターン1 平均 11.8km
	甲田グループ (高宮・甲田・向原)	高宮～ 12.5km	向原～ 9.7km (平均 11.1km)	
パターン2	吉田グループ (吉田・八千代・向原)	八千代～10.9km	向原～ 7.1km (平均 9.0km)	パターン2 平均 10.6km
	高宮グループ (美土里・高宮・甲田)	美土里～11.8km	甲田～ 12.5km (平均 12.2km)	
パターン3	吉田グループ (吉田・八千代・美土里・高宮)	八千代～10.9km	美土里～13.8km (平均 13.8km)	パターン3 平均 11.8km
	甲田グループ (甲田・向原)	向原～ 9.7km	(平均 9.7km)	
パターン4	吉田グループ (吉田・八千代)	八千代～10.9km	(平均 10.9km)	パターン4 平均 13.2km
	高宮グループ (美土里・高宮・甲田・向原)	美土里～11.8km	甲田～ 12.5km (平均 15.4km)	

5

【5頁 説明】

最も割合の高かった2校案について、4つのパターンをお示しします。

パターン1は、6月のアンケートの際に示した吉田グループ・甲田グループです。

パターン2は、通学距離の短縮が可能な、吉田グループ・高宮グループです。

パターン3は、アンケートの際、1校案の指示が一番多かった3校案の美土里・高宮を吉田グループに編入した案です。

パターン4は、同じく、1校案の指示が一番多かった3校案の美土里・高宮を甲田・向原グループに編入した案です。

このグルーピングの結果、2校案については赤く囲んだパターン2が、現中学校からの平均距離が吉田グループで9キロメートル、高宮グループで12.2キロメートル、平均では10.6キロメートルとなり、距離の面で1番短くなり、妥当な案になるのではないかと考えました。

よって2校案については、この「パターン2」で、以下検討を進めます。

2.(1) 学級数・生徒数ー <1校案の場合>

- ・1校案の場合、望まれる学校規模として、クラス替えが可能な1学年複数学級が確保できる。
- ・生徒数は今後減少していき、2027年度には600人を切り、2033年度には400人を切る見込み。

2026年度 予測 (単位:学級)

学年	普通学級の数
1学年	5
2学年	5
3学年	6

(1学級当たり40人で算出)



6

【6頁 説明】

校数の案ごとに普通学級の数と生徒数を表及びグラフにしています。

1校案では2026年度(令和8年)の予測では1学年5学級、2学年5学級、3学年6学級と比較的大きな規模の学級数となり、10年後においてもそれぞれの学年で複数の学級を維持できます。

しかし、生徒数は年々減少し、2030年(令和12年)には500人を切り、2033年(令和15年)には400人を切る見込みです。

2.(1)学級数・生徒数ー <2校案の場合>

・2校案の場合、高宮グループ(G)が2028年度には200人を切る見込み。



7

【7頁 説明】

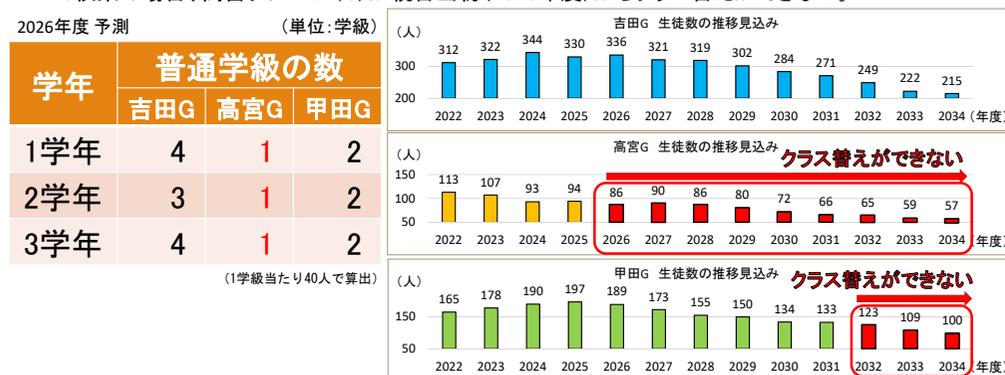
2校案の場合には、2026年(令和8年)では、吉田グループでは1学年当たり3から4学級の見込みです。高宮グループにおいては、それぞれの学年で2学級となる見込みです。

これが、2029年(令和11年)には高宮グループにおいては200人を切る見込みです。

また、約10年後の2032年(令和14年)になると、高宮グループにおいてはクラス替えができない1学年当たり1学級の学年が発生する見込みになります。

2.(1)学級数・生徒数ー <3校案の場合>

・3校案の場合、高宮グループ(G)が統合当初(2026年度)からクラス替えができない。



8

【8頁 説明】

3校案の場合、高宮グループが統合当初からそれぞれの学年が1学級で、10年後の2034年(令和16年)には全体で57名となる見込みになります。

これでは、そもそも、平成22年4月に学校規模適正化委員会から受けた「答申」に記載されている、「1学年複数学級」であること、「1学級20名から30名程度」といった望まれる学校規模が確保できませんので、3校案を検討することについては、現実的でない判断しています。

以上のことから、3校案については、今後の検討から外すこととします。

2.(2)通学距離—＜1校案の場合＞

・路線も多く、長距離輸送のため経費が必要。



9

2.(2)通学距離—＜2校案の場合＞

・1校案よりは距離が短縮でき、経費を抑えることができる。



10

【9頁 説明】

通学距離について試算したものです。
イメージしやすくするため、現中学校からの距離で試算しています。

1校案の場合、最も遠くなるのが、高宮中学校からの16.6キロメートルです。

中心となる吉田町への通学となるため、想定するスクールバスの台数、経費についても多くなってしまうことが予想されます。

この場合、バスが10台。経費は年間約6千9百万円と試算しています。

【10頁 説明】

2校案の場合、1校案と比べ通学距離も短くなります。

最長でも甲田中から高宮中の12.5キロメートルで、最短では向原中から吉田中の7.1キロメートルです。向原町から吉田町へのトンネルが開通すれば、利便性が高まると期待されます。

想定するスクールバスの台数、経費についても、1校案と比べ台数や経費を抑えることができます。

この場合、バスが6台。経費は年間約5千8百万円と試算しています。

2.(3)部活動の選択肢一 <現状>

【現状】 2021年5月1日現在

区分	吉田中	八千代中	美土里中	高宮中	甲田中	向原中
運動部	12 サッカー・野球 など	5 野球 など	7 バスケットボール など	6 バレーボール など	6 ハンドボール など	6 サッカー など
文化部	3 吹奏楽 など	1 文化	1 文化	1 文化	1 美術	1 文化

11

【11頁 説明】

次の12ページにわたり部活動について現状と統合後の部活動数について比較をしています。

現状では、運動部、文化部ともにそれぞれの学校にありますが、選択肢が少なくなっています。

運動部においては吉田中学校以外では5～7部ありますが、実際のところ、部活動によっては自校ではチーム編成が難しく、他中学校と合同チームを編成しているという例もあります。

文化部においては吉田中学校を除き、1つしかなく、選択できる余地がない状況です。

2.(3)部活動の選択肢一 <統合後>

・部活動の選択肢が広がり、団体競技を多く設置することが可能

【統合後】 2026年度 予測

区分	1校案	2校案	
		吉田G	高宮G
運動部	17 野球・サッカー・陸上 など	13 野球・サッカー・陸上 など	15 野球・陸上・ハンドボール など
文化部	5 吹奏楽・家庭科 など	4 吹奏楽・家庭科 など	2 美術・文化

12

【12頁 説明】

統合後では、1校案の場合、現在行われている部活動においても、17部の部活動を行うことができ、文化部においては、5つの部活動ができます。

2校案においても、選択肢の幅は現状よりも増えますが、両校において差ができてしまうこととなります。10年後においては、生徒数の減少により活動できない部活動も出てくるのではないかと考えています。

2.(4) 専科科目教職員の配置－〈現状〉

【現状】2022年度現在

(単位:人)

区分	吉田中	八千代中	美土里中	高宮中	甲田中	向原中
専科科目教員数 音楽、美術 技術・家庭科	2	1	1	1	1	1

13

【13頁 説明】

専科科目の教職員配置について、現状と統合後を比較しています。

一般科目や専科科目の教職員は、広島県の基準で、学級数に応じて配置が定められています。

専科科目とは、音楽、美術、技術・家庭科の教科のことです。

現状では、専科科目の教職員は、吉田中学校では2人いますが、それ以外の中学校では1名という定数配置になっています。

これは、1名の職員が兼務をしたり、あるいは加配という措置であるとか臨時採用の職員によって、他の学校を回ってカバーしたりということで対応している状況です。

2.(4) 専科科目教職員の配置－〈統合後〉

・学級数が多いほど専科科目の教職員を複数名配置することが可能

【統合後】2026年度 予測

(単位:人)

区分	1校案 16学級の場合	2校案	
		吉田G 11学級の場合	高宮G 6学級の場合
専科科目教員数 音楽、美術 技術・家庭科	4	3	1

14

【14頁 説明】

統合後では、1校案においては、2026年(令和8年)において16学級編成の見込みとなりますので、4名の専科科目の教職員の配置ができます。

2校案においては、吉田グループでは3名の配置、高宮グループにおいては1名の配置ということになり、両校において差が生じることとなります。

2.(5) 必要な教室数の見込み

・既存校舎を利用する場合、いずれの案も教室が不足する見込み。

区分		1校案	2校案	
			吉田G	高宮G
教室数	現状	23 教室	23 教室	15 教室
	必要見込み (2026年度 予測)	31 教室	26 教室	18 教室
		↓	↓	
		新築	既存校舎と増築で対応	

※教室数には、普通教室や理科室、音楽室などを含む。

【15頁 説明】

施設面における必要な教室数の見込みです。

既存校舎を利用する場合、1校案・2校案いずれの案も教室の数が不足する見込みです。

今年の3月に文部科学省から示された「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方」では、多様な教育的ニーズにある生徒への対応が必要となっていることから、従来の普通教室や特別教室に加えて、通級教室やスペシャル・サポート・ルーム(SSR)、少人数学級など必要なスペースを確保することが必要となります。

その場合、1校案では多くの教室が不足する見込みですので、未来志向の新しい施設を新築したいと考えていますが、2校案では、不足数が3教室程度ということで、将来の生徒数の減少を考慮すると、既存校舎と増築した教室で対応可能ではないかと考えます。

2.(6) 新しい学校像(案)ー〈校舎・教室〉

◆木材を利用した学校づくり(文部科学省)

①教育的効果の向上 ②地球環境への配慮 ③地域の風土・文化への調和

◆ICT設備、どこでも使えるWi-Fi環境の整備

◆読書・学習・情報のセンターとなる学校図書室の整備

◆新型コロナに対応した衛生環境、換気システムの導入

◆文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」に基づき、普通教室面積を約74㎡(現行:56.27~64.8㎡)、机の大きさを65cm×45cm(現行:60cm×40cm)を基本とする。



(絵: 文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について(別添1)令和4年3月」から抜粋)

【16頁 説明】

統合した学校を考えていくうえで、どのような学校環境や学習環境が、時代に合った形で、子どもたちにとって最もいいのかというのを考えていきます。

そこで、教育委員会として新しい学校像(案)というのを示させていただきました。ここに書いてあることが全てできるという保証はないですが、できる限りソフト面、ハード面を併せてここに近い形での学校というのは実現できるよう努力していきます。

校舎・教室のハード面については、文部科学省も推奨している木材を多く利用し、木材の特質を活かした学校を造っていきたくと考えています。また、ICT設備を整え、各教室は基より廊下や多目的室など、どこでもWi-Fi環境が整った設備を整備し、新型コロナ感染対策の面にも対応した衛生環境、あるいは換気システムを導入していきたいと考えます。

また、新しい時代の学びを実現するため、1人1台端末や教科書が広げて置くことができない現在の机を、一回り大きな机に換え、現在の教室よりも広い教室を整備したいと考えています。



吉田中学校 授業の様子1



吉田中学校 授業の様子2

【写真説明1】

中学校の授業の様子をご紹介します。

この写真は吉田中学校3年生の授業ですが、今の学級の生徒数は38～39人で、教室いっぱい、すし詰め状態で学校生活をしています。

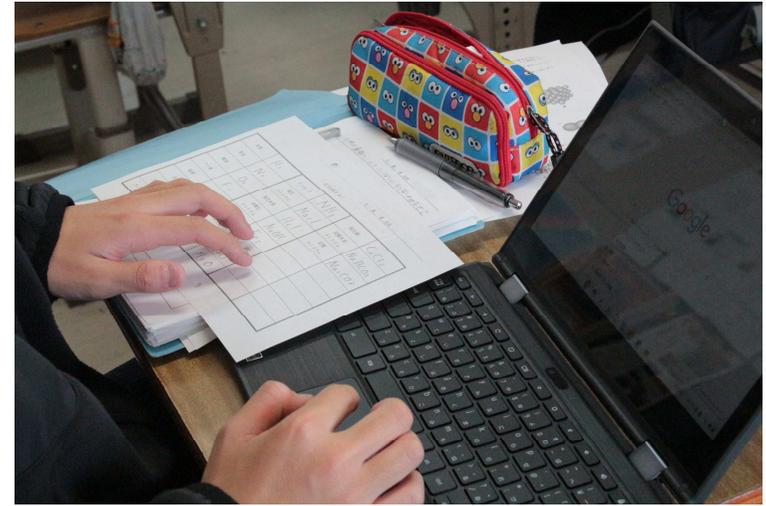
ご覧のように廊下側の壁に引っ付くように机を並べております。

【写真説明2】

後ろはロッカーぎりぎりまで机を並べています。



吉田中学校 授業の様子3



吉田中学校 机の上の状況

【写真説明3】

窓側もギリギリまで机を並べています。

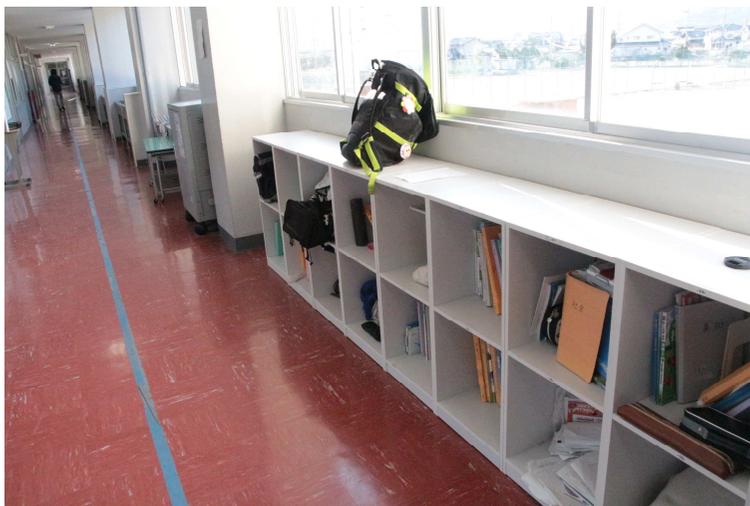
現在コロナ感染のこともあります、隣席の距離を十分に確保することができず、先生が机と机の間を通る際にも体を横向きにしている状況もあるようです。

【写真説明4】

この写真は、授業の際の机の上の様子を撮影したものです。

現在配布しているクロームブックを広げると、教科書やノートを広げることができない状況です。

一回り大きな机であれば、スペースに余裕もでき、スムーズな授業を受けることができるのではないかと考えます。



吉田中学校 廊下の様子

2.(6)新しい学校像(案) —〈授業〉

- ◆現在の6時限カリキュラムを5時限カリキュラムに見直し、これまでと同等の部活動をしながら、これまでと変わらない帰宅時間の確保
- ◆ICTを活用して電子教科書を取り入れた授業への取組
- ◆ネットを使った市外の他の中学校との共同授業の実施
- ◆未来チャレンジ探究学習（PBL）の充実



(絵：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（別添1）令和4年3月」から抜粋）

【写真説明5】

先ほどの教室の写真でもありましたが、教室の後方にあるロッカーが席のすぐ後ろにあることで、ロッカーの使い勝手も悪く、また、授業道具も増えている関係で、机の下や後方のロッカーに入れることができず、廊下にロッカーを置いて、生徒の皆さんが荷物を入れているという状況です。

写真の奥側になりますが、先ほどのクロームブックを入れて充電する保管庫も吉田中学校では廊下に置いています。

生徒の皆さんに安全な学校生活を送っていただくよう様々な対策をしていますが、どうしても物理的な建物の構造であったり、造りまで手を入れることができていない実態です。

生徒の皆さんには苦勞をかけ、先生方にも色々工夫してもらっています。

【17頁 説明】

ソフトの授業面ですが、ここが一番重要な部分の一つになると考えます。

学校規模適正化の検討は、様々な要素が絡む非常に困難な課題なのですが、飽くまでも子どもたちの教育条件や授業内容改善の観点を中心に、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべきものと考えますから、これからの時代に求められる教育内容や、指導方法の改善などを十分に勘案し、これから、先進地を視察したり、生徒の意見を取り入れたりしながら、今後さらに研究していきたいと考えています。

現在、カリキュラムの見直しや未来チャレンジ探求学習PBLの充実などを検討しているところです。

2.(6)新しい学校像(案) — <部活動>

◆部活動の地域移行に伴う外部指導者による指導

◆特色ある部活動の充実

- 例)
- ・サンフレッチェ広島等指導者が指導する男子・女子サッカー部
 - ・ワクナガレオリック等指導者が指導するハンドボール部
 - ・安芸高田市温水プールを活用した水泳部（年間を通じて活動が可能）
 - ・eスポーツ部
 - ・スケートボードやBMXのストリートスポーツ部
 - ・土師ダムを使ってカヌーやBMX
 - ・地域神楽団員の指導による神楽部
 - ・趣味など打ち込める同好会 など

◆文化部の充実

◆金管バンドなど小学校の活動から継続した部活動の実施



18

【18頁 説明】

部活動では、現在、部活動の地域移行について文部科学省でも検討されていますが、部活動の地域移行に伴い、現在の教職員による部活動の指導から、地域のスポーツクラブや外部の指導者による指導により、技術力や精神面の向上を見込んでいます。

ここに記載していますのはあくまで例示ですが、e-スポーツや神楽部など特色あるクラブ活動の充実を図っていくことが可能と考えています。

吉田中学校以外では1つの部活動しかなかった文化部においても、様々な活動を広げることができ、小学校のときにしていた例えば金管バンドなどの活動を中学校でも継続して行うことも可能と考えます。

3.(1)検討結果整理表

項目	1校案		2校案	
	長所	短所	長所	短所
学級数 生徒数	1学年複数学級が確保できる。	—	統合時は1学年複数学級が確保できる。	2032年度からクラス替えができない学年が発生する。
通学	—	通学距離が長くなり、経費が高くなる。	1校案と比較すると通学距離が短くなり、経費が低くなる。	—
部活動	部活動の選択肢が広がる。	—	現状と比較すると部活動の選択肢が広がる。	生徒数の減少により、部活動の選択肢が狭まる。
教職員 配置	専科科目職員を複数配置できる。	—	—	学級数の減少により、配置できる教職員数が限られる。
施設	校舎を新設し、最新の設備・環境を提供できる。	校舎を新設する為、費用が多くなる。	既存校舎の利用の為、費用を抑えることができる。	既存校舎と増築校舎で、設備・環境に差が出る。将来的に、再び統合を検討する状況が生じる。

19

【19頁 説明】

これまで検討してきたことを、長所・短所として整理した表になります。

1校案においては、長所として、生徒数、学級数が維持できることや部活動においては選択肢がより多くなること、また、教職員の配置でも専科の教職員が多く配置でき、ハード面について新築により最新の設備が整備することができます。短所としては、通学のこと、校舎新築による非常に多くの経費が掛かることが挙げられます。

2校案においては、現状の状況からは改善できますが、今後の生徒数の減少により、部活動の縮小や教職員の配置が少なくなるなど、約10年後には再度統合について検討する必要が出てくるのではないかと危惧しています。

3.(2)まとめ



20

【20頁 説明】

安芸高田市教育振興基本計画では、学校という場所は子どもたちが「急激に変化する社会に対応した未来に生きる力を高める場所」と定義されています。

未来を生きる子どもたちが、これから社会人となっていくうえで、最新の設備・環境の整った学校で、より多くの仲間と協働しながら、新しい価値を創造していく力を中学校生活を通じて育ててほしいと考えています。

3.(3)結論

子どもたちの学びにとって1番望ましいのは、「1校案」と考えています

皆様のご意見、ご感想をお聞かせください！

21

【21頁 説明】

そのような思いから、教育委員会としては、子どもたちの学びにとって1番望ましいのは、総合的に見て「1校案」ではないかと考えています。

安芸高田市の義務教育の総仕上げを、最新の設備が整った、新たな学校で学ぶことができるよう、最大限、今後努力していきたいと考えています。

保護者の皆様のご意見、ご感想をお聞きし、統合計画に盛り込んでいきたいと考えています。